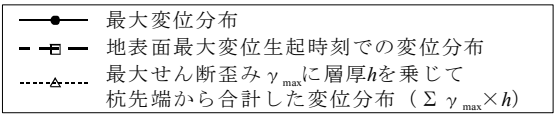
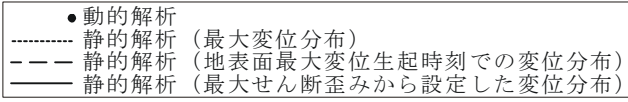


『建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計』 正誤表

\* 6章 (pp.152~162, 193) の修正版が [こちら](#) にございます。差し替え用としてご利用ください。

	頁	行	誤	正
第I編	92	下から7行目	・・・埋込み基礎部の質量 $m_g$ は・・・	・・・埋込み基礎部の重量は・・・
	93	上から2行目	各階の質量 $m_0$ は・・・	各階の重量は・・・
	110	図3	地盤総厚 $H$	地盤層厚 $H$
	155	上から3行目	・・・ <u>回帰したものである。</u>	・・・ <u>回帰したものであり、地盤条件が限定されたものである。</u>
	156	上から9行目	1000 本程度までの大規模群杭に対して・・・	少数本杭から多数本杭に対して・・・
	156	下から6行目	<u>回転ばねの群杭係数は、群杭係数の評価法-1と同様に1とする。ただし、大規模群杭の場合には、回転ばねを過大評価する可能性があるので、式(6.2.12)～式(6.2.20)に示す評価式<sup>2)</sup>を用いた方がよい。</u>	式(6.2.12)～式(6.2.20)に示す評価式 <sup>2)</sup> を用いる。
	157	上から8行目	<u><math>L</math> : 工学的基礎までの杭長 (支持層貫入部を除いた杭長)</u>	$L$ : 支持層貫入部を除いた杭長
	157	上から10行目	支持層地盤の $S_r$	支持層地盤の $S_r$ (式(6.3.34)中の $G_p$ を支持層のせん断剛性 $G_b$ に置換)
	157	上から12行目	<u>ここでは、支持層への貫入が小さい場合も想定して、・・・</u>	文献 3)には記述されていないが、支持層への貫入が小さい場合には、・・・
	157	上から15行目	大規模群杭については式(6.2.21)～・・・	式(6.2.21)～・・・
	158	下から3行目	・・・Francis の式 <sup>7)</sup> と <u>Gazetas の式<sup>8)</sup></u> を用いる簡便法	・・・Francis の式 <sup>7)</sup> を用いる簡便法 <sup>25)</sup>
	159	上から16行目	(ii) Francis と <u>Gazetas の式</u>	(ii) Francis の式を用いる簡便法
	159	上から17行目	・・・ <u>Gazetas の式</u> を用いて、・・・を評価する。	・・・Gazetas らによる方法 <sup>8)</sup> を参考に、・・・を評価する <sup>25)</sup> 。
	159	下から6行目	<u><math>c_{gsi} = 2\rho_i B(V_{La_i} + V_{Si})</math> (Gazetas の式)</u>	$c_{gsi} = 1.57\rho_i B(V_{La_i} + V_{Si})$
	159	下から1行目	また、 <u>Gazetas の式は、図 6.3.2 に示すように、</u> ・・・	また、 <u>式(6.3.6)は、</u> ・・・
160	図 6.3.2	 <p>図 6.3.2 Gazetas の式 の概念図</p>	 <p>図 6.3.2 土方らの方法による概念図<sup>25)</sup></p>	

第I編	160	上から1行目	$V_{La}$ はLysmerが提案した等価なP波速度で、・・・得られたものである。	$V_{La}$ はLysmerの波動速度で、・・・得られたものである。係数1.57は、図6.3.2に示すように、直径 $B$ の円形断面と等価な周長の正方形断面として求められており、薄層法との比較により妥当性が検証されている <sup>25)</sup> 。また、文献26)では、円形を外接する正方形断面として式(6.3.6)の係数を2としているが、この場合についても後述の図6.3.9と同様に薄層法と対応することが確認されている。
	160	上から8行目	・・・アプローチが考えられる。	・・・アプローチが考えられる <sup>22)</sup> 。
	160	下から7行目	・・・式(6.3.10)が得られる <sup>4)</sup> 。	・・・式(6.3.10)が得られる。
	160	下から2行目	・・・式(6.3.12)が得られる。	・・・式(6.3.12)が得られる <sup>22)</sup> 。
	161	上から4行目	・・・適用する。	・・・適用する <sup>22)</sup> 。
	161	上から8行目	・・・採用することとする。	・・・採用することとする <sup>12)</sup> 。
	161	上から12行目	・・・基礎幅を式(6.3.7)に・・・	・・・基礎幅を式(6.3.6)に・・・
	177	上から10行目	・・・求めた地下深度 <sup>15)</sup> を・・・	・・・求めた地下深度 <sup>12)</sup> を・・・
180	図6.5.6の凡例	(正) 		
181	図6.5.7の凡例	(正) 		
193	文献の追加	25) 土方勝一郎・柳下文雄・富井隆：群杭の動的インピーダンス簡便評価法，日本建築学会構造系論文集，No.455，pp.73-82，1994 26) 長谷川正幸：群杭における水平地盤反力係数 $k_h B$ の実用算定法，清水建設研究報告，Vol.69，pp.37-46，1999 27) 土方勝一郎・成川匡文ほか：Penzien型モデルによる多数本杭で支持された杭基礎建屋の地震応答解析法（その1）～（その5），日本建築学会大会学術講演梗概集，B-2，pp.359-368，1999		
第II編	214	表8.3.7 詳細法CASE-2 Y方向回転地盤減衰係数	$13.85 \times 10^6$	$13.85 \times 10^5$

第II編	281	図 10.3.19 の中段	(正)	
	281	図 10.3.20 の上段	(正)	
	281	図 10.3.20 の中段	(正)	
CD-ROM	付録2用プログラム			
	フォルダ名	誤	正	
	5_埋め込み基礎_2層地盤 6_埋め込み基礎_3層地盤	基礎入力堂	基礎入力動	
	付録4用計算シート			
	シート名	セル位置	誤	正
上下地盤ばね の周波数特性	A3セル	地盤1次振動数の2倍以下での・・・	地盤1次振動数以下での・・・	
	A4セル	地盤1次振動数の2倍以上での・・・	地盤1次振動数以上での・・・	
	C7セル	= 振動数データ!D2	「上下方向の連成系の振動数」を直接入力 (“シート保護の解除” コマンド (“ツール” メニューの “保護” サブメニュー) を実施)	